

社会福祉事業

1、特別養護老人ホーム水彩館

① 平均稼働率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
利用者延人数	2,404	2,501	2,458	2,513	2,491	2,411	2,438	2,392	2,458	2,387	2,204	2,472	2,427
1日平均数	80.1	80.7	81.9	81.1	80.4	80.4	78.6	79.7	79.3	77.0	78.7	79.7	79.8
稼働率	95.4%	96.0%	97.5%	96.5%	95.7%	95.7%	93.6%	94.9%	94.4%	91.7%	93.7%	94.9%	95.0%

② 日常生活状況（3月末時点）

区分	食事			排泄			入浴			歩行		
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助
人数	56	14	8	12	47	19	5	56	17	14	22	42
区分	寝返り			車椅子			整容動作			褥瘡	胃ろう	酸素
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助			
人数	48	22	8	15	17	28	32	33	13	0	4	0

③ 計画に関する報告

ベッド数	：	84 床	年間利用可能床数	：	30,660 床
------	---	------	----------	---	----------

① 収益計画

計画内容
(1) 稼働率
・ 95.5 %とする（年間延べ利用床数： 29,127 床）
(2) 稼働安定に向けた指針
・ 平均要介護度 3.9 を目安とする
・ 入院者増加を防ぐ対策を行い、空床率を抑える（感染対策等含む）
・ 入居申込み者を増やすための対策検討
・ 退所後の空床の期間の短縮、効率よい入所までの運び
・ 公平性を保った入所判定会の開催
(3) 営業力強化
・ 定期的、継続的な営業活動
・ 施設のサービス内容が、目で見えて理解できるような営業方法を検討
・ 他自治体への営業エリア拡大

<ul style="list-style-type: none"> 施設内他事業所を含めた、連結的な営業活動を行う
成果・報告事項
<ul style="list-style-type: none"> 29年度4月より4床用途転換、計84床。稼働率ほぼ達成 入退院者については下期が多く、安定した稼働率を維持するための対応の検討、継続 入院者 上期 2.66名（月平均） 下期 4.5名 入院日数 上期 20.25日（月平均） 下期 23.85日 初動対応の強化、館内多職種医療連携、近隣医療機関との連携の実施、継続 待機者を待たせず、効率の良い入所業務遂行をさらに検討していく 16名新規入居（うち4名用途転換で増床分） 最短0日～25日（平均10.75日） 入所判定会議の開催（8回開催） 営業活動について在宅部門、施設部門で連携、定期的に状況の報告を継続的に実施

② 業務及び組織力向上計画

計画内容
<p>(1) 管理職員教育による組織力向上（管理業務の指導や方法論）</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職用の内部研修の実施 管理職用の外部研修への参加 管理者レベルでの他部署、他部門との業務連携を強化 <p>(2) 情報共有、情報管理と伝達力の向上（更なる安心安全の保持）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各会議やカンファレンスでの伝達や報告事項をわかりやすく明記する 管理職同志の情報認識確認を、各会議等で再確認する 他部署、他部門の情報認識確認を、各会議等で再確認する パソコン内の共有ホルダーや、介護ソフト等を活用した情報共有方法の検討
成果・報告事項
<ul style="list-style-type: none"> 管理職者向けの外部講師のによる館内研修の実施 実施内容：自己理解・コミュニケーション・顧客満足度等 5回 各回約15名参加 来年度も継続 内部研修の実施、継続 運営会議等による情報共有と伝達の徹底を実施、継続

③ 福祉サービス力向上への方策

計画内容
<p>(1) 技術力の向上（福祉事業の意味・業務技術・OJT等）</p> <p>i 仕事に対する考え方教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人理念、施設方針、今期事業計画を伝達及び理解させる研修の実施 地域貢献や外部研修を通じて、社会性と福祉の必要性を認識させる場の提供 <p>ii 業務技術向上への方針</p> <p>-1 利用者中心の介護業務を行う方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニットケアの推進、24時間シートの活用方法検討 各部門や部署の連携方針 各カンファレンスの在り方の検討 <p>-2 具体的な介護の内容（24シート、ケアプランに基づいた介護内容の共有・実行）</p> <p>◎起床・就寝において</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の生活リズムを知り、その方にあわせて一日を組み立てる 睡眠の状況を把握し、必要に応じた対応をすることで健康を維持する <p>◎食事提供時において</p> <ul style="list-style-type: none"> 美味しく、安全に、楽しく食べていただけるような工夫、配慮、環境整備 栄養をとり健康を維持するために不可欠であることを理解

◎排泄時において

- ・プライバシー保護と個々のリズムを知り、清潔、快適さを提供
- ・排泄用品の適切な利用（利用者の快適さ・コスト面への意識）

◎入浴時において

- ・プライバシーの保護と個々の快適さを尊重したユニットごとの入浴の推進
- ・安全かつ適切な入浴方法についての定期的な見直し

◎環境に対する配慮

- ・家庭的な雰囲気作りの継続
- ・誰が見ても清潔感があるよう心地よく衛生管理の行き届いた空間の整備

-3 内部OJTの在り方について

- ・24時間シート等に基づいた基本的な業務スケジュールの整備、見直し
- ・誰もが根拠を知り、説明ができることで同じケアが出来ることを理解する
- ・経験年数に応じた役割の整備とその実行（プリセプター、プリセプティ制度）

成果・報告事項

- ・新しい理念の周知、理解について、各種会議、職員心得などによって実施、継続
- ・具体的な業務について各部署ごとに月間目標をたて、実施、達成できるよう意識付けを継続
- ・ご利用者の生活に沿って行えるよう24時間シートの更新、充実を図り実施
- ・アンケートによりご利用者、ご家族の満足度の確認とその周知の実施
- ・環境整備の強化（専門担当の配置）

計画内容

(2) 感染症蔓延予防対策の方針

i 感染症まん延の予防策

- ・感染対策マニュアルの内容確認に基づいた対応、行動
- ・館内状況と周辺状況の情報収集による、面会制限の発令
- ・予防接種の実行と確認
- ・健康管理の徹底
- ・面会制限発令以降の館内行事の制限
- ・感染症対策委員会の設置（感染対策マニュアル・特別委員会欄参照）

ii 感染症重症化の予防策

- ・感染症特有の症状が少しでも出れば、即時居室対応、検査等行う
- ・受診が必要かどうかへの見極め力、指示判断基準の確認
- ・重症化させないための早めの受診の指示

iii 感染症まん延時などに備えた、事業継続計画の整備

成果・報告事項

- ・嘱託医、産業医からの指示指導に基づき、予防対策を実施し、特養利用者においては感染者無し
- ・面会制限については12月中旬から3月中旬まで実施（職員、来館者の健康チェック等の徹底）
- ・情報収集の徹底（市内情報、保健所情報、保険者、県等）・マニュアル等の充実、補足実施

計画内容

(3) レクリエーション提供と機能訓練の支援

i ユニット内レクの提供について

- ・季節や伝統文化を楽しんでいただく
- ・生きがいを見いだせる・ユニットごとのカラーが出せる

ii 施設全体レクの提供について

- ・館内の一体感や地域とのかかわりを味わう
- ・喜ばしい晴れの舞台を味わう

<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な施設内販売など、買う、見る、選ぶ、季節を感じる楽しさを味わう <p>iii 機能訓練支援の提供について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あっとほーむ体操の定着、継続 ・生活動作を繰り返すことによるリハビリを常時暮らしに取り入れる ・身体機能の維持、低下防止・自律支援
<p>成果・報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会を中心とした全体行事と各部署ごとのレクの推進、実施 ・専門職員とボランティア活用によるカフェの実施（ローズカフェ 下期より再開 二回） ・館内販売 衣料品（年二回） 食品日用品（月二回）の継続実施 ・あっとほーむ体操、食事前の『北国の春』体操、個々の生活動作による生活リハビリの継続 ・自立（自律）支援、館内歩行、自走の支援・作品の仕上げなど（スタンプカードの活用）約16名

<p>計画内容</p> <p>(4) リスクマネジメント力の向上</p> <p>i 事故防止の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケガや発病時について事前にリスクを回避するための取組みの徹底 ・起きてしまった後の振り返りや、見直し、環境整備の取組みの徹底 <p>ii 個人情報の取り扱いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法に基づく取扱いの徹底
<p>成果・報告内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生委員会にて事故分析し、産業医にも報告、指示等受け継続実施 ・重点取組み 服薬に関する事故についての検証となくすための取組み ・SNS等のかかわりについて心得へ記載し、正しい取扱いの指導

<p>計画内容</p> <p>(5) ターミナルケア力の向上</p> <p>i おひとりお一人にあわせたお看取りに向けての取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な時期におけるご同意書の取り交わしやご家族への説明 ・ターミナルケアについての研修 ・ご自身の「逝き方」についての事前の確認、アセスメント ・いつも通りのケアの実行 ・ご家族対応 ・ユニットごとのお見送りの形 <p>ii お看取り後の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご家族・職員・ユニットの利用者の心のケア ・振り返りシート等を使っての、事例集の構築
<p>成果・報告内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・29年度は 計 5 名の方のお看取り実施 ・ユニットごとのお別れ、お見送りについて情報共有 ・来年度以降、さらに看取り介護の向上を検討するための委員会の設置検討 ・仏具を複数購入

<p>計画内容</p> <p>(6) 認知症対応力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職種が認知症についての実践方法を学び、対応力をつける ・困難な事例等の検証、情報共有 ・『住み慣れた地域で尊厳を持って生活していく』を実現する
--

成果・報告内容
<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 ・さらに専門的な知識を身につけるための研修の充実 ・各種研修への参加

計画内容
<p>(7) 権利擁護の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永続的な権利擁護の推進、身体拘束の廃止、虐待防止の取組み ・高齢者の尊厳の確保と質の高いサービスを継続的に提供する ・権利擁護全般に関する知識や介護技術の不足、ストレス、個々の事情等と密接に関係があるので多角的に推進
成果・報告内容
<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束 0件 ・ストレスチェック制度の活用、相談窓口の設置 ・権利擁護委員会を中心に毎月虐待防止等の周知継続

4 人材育成、確保計画

計画内容
<p>(1) 多様な人材育成（1人2役・医療、障害等の知識向上・指導力や創造力の向上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部研修の提供内容の工夫 ・医療や障害にかかわる外部研修への参加 ・上位資格とその資格保持に見合った業務の理解力向上 <p>(2) 人材確保への対策（シルバー世代、外国人雇用・研修場所等の活用など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校や専門学校生の新卒者の確保 ・介護福祉士等の実習先としての受入れ ・定年が70歳のため、60歳以上の雇用を積極的に行う ・各種学校、専門学校への実習、研修場所提供 ・将来に向けた、外国人雇用における更なる諸準備 ・障害者の雇用を継続するための体制整備・協力機関との連携
成果・報告事項
<ul style="list-style-type: none"> ・数名の職員が能力を発揮し一人二役業務で運営に貢献 ・館内実習生の受入を実施（介護福祉士養成学校 2名・教員免許取得のため介護実習生 5名・障がい者就労のための訓練実習生 1名・近隣中学生職業体験 2名） ・専門学校生の採用 ・各種面接セミナー等に参加（専門学校・高校生・障がい者） ・技能実習生受入れ準備のための海外視察、管理者、実習担当者の研修受講、管理団体のセミナー参加 ・広報誌、HPの充実と活用（ブログの定期更新）

5 地域共生社会構築への方策

計画内容
<p>(1) 地域貢献事業の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域担当者ボランティアによる、近隣地区での催し、相談会等の実施 近隣地域の祭り等の参加（井野団地・小文間・ゆめあかり他） <p>(2) 地域との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣地域の活性化ワーキンググループへの参加 ・地域の自治会参加 ・地区民生委員児童委員協議会との連携・受入れ

<p>(3) ボランティアとの連携や関わり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア担当者の選定と対応方法を支援 ・ ボランティアの受入れ、奉仕内容の検討、集約、振り分け ・ ボランティア団体との連携、協力・社協との連携、協力 <p>(4) 地域防災対策の推進</p> <p>i 災害時の協力体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 茨城県広域避難計画受入協定 東海第二原子力発電の原子力事故による災害時に避難地域の施設の受入れの協定 ・ 災害時相互応援協定 災害時に相互協力して応援を行うことで入居者の安全、施設の安定的な運営を図る ・ ふれ愛パートナーシップ連絡協議会 地域連携、共通課題の解決、学び、情報交換等、防災についての共助 <p>ii 福祉避難所としての役割</p> <p>iii 地域の防災組織との連携、協力</p>
<p>成果・報告内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域貢献事業「彩の集い」 11月城根町内会、12月城根自治会にて開催 ・ 地域のイベント参加 7月井野団地夏祭り・8月小文間盆踊り・9月土浦子供職業体験/run伴2017 ・3月ゆめあかり2017 ・ 取手市高齢福祉課共催 地域支え合いづくり推進協議会参加、小文間活性化会議参加と場所提供 ・ 自治会、町内会の催しに参加 町内会、自治会活動 お祭り、新年会、クリーンデイ等 ・ 取手市介護支援ボランティア受入れ 延べ人数146人 活動時間 約285時間 ・ 館内ボランティアの受入れ 延べ回数72件 約180名 ・ 近隣中学校 ボランティア活動クリーンデイ・吹奏楽部慰問受入れ ・ 地域防災に関しては連携の継続実施

⑥ ご家族、公的機関等との連携

<p>計画内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族対応、ご家族との信頼関係の構築 ・ 家族説明会の定期開催 ・ 緊急時の受入れ体制整備（虐待ケース、市、包括等の公的機関からの依頼等） ・ 苦情解決窓口の設置、開設
<p>成果・報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族説明会の定期開催（11月及び、3月に実施） ・ 相談員、ケアマネを中心とした日頃からのご家族との信頼関係の構築継続実施 ・ 家族向けアンケートの実施、8月館内掲示 178件配布、回収率57.9% 特養90.3% SS82.4% DS91.2%のご家族様より大変満足・満足 ・ 毎月発行のお便り、広報誌、HPの充実のよりご家族へ状況を通知、継続実施 ・ 苦情解決第三者委員会の定期開催（2回） ・ 苦情窓口の周知 ・ 取手市介護福祉施設連絡会代表の継続で市との連携を密にする

2、ショートステイ水彩館

① 平均稼働率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
利用者延人数	289	332	376	419	456	405	419	379	454	412	392	439	398
1日平均数	9.6	10.7	12.5	13.5	14.7	13.5	13.5	12.6	14.6	13.3	14.0	14.2	13.1
稼働率	60.2%	66.9%	78.3%	84.5%	91.9%	84.4%	84.5%	79.0%	91.5%	83.1%	87.5%	88.5%	81.7%

② 日常生活状況（3月末時点）

区分	食事			排泄			入浴			歩行		
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助
人数	12	3	0	3	11	1	3	12	0	4	6	5
区分	寝返り			車椅子			整容動作			褥瘡	胃ろう	酸素
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助			
人数	10	4	1	1	2	3	11	3	1	0	0	0

③ 計画に関する報告

ベッド数	： 16 床	年間利用可能床数	： 5,840 床
------	--------	----------	-----------

① 収益計画

計画内容
<p>(1) 稼働率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 81.3 %とする（年間延べ利用床数： 4,964 床） <p>(2) 稼働安定に向けた指針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月より、4床特養へ用途変更（計16床） ・ 平均要介護度 3.3 を目安とする ・ サービス体制に応じた加算の算定 ・ 選ばれる事業所としてのサービスの質の向上 <p>(3) 営業力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的、継続的な営業活動 ・ 施設のサービス内容が、目で見えて理解できるような営業方法を検討 ・ 営業エリア拡大 ・ 施設内他事業所を含めた、連結的な営業活動を行う
成果・報告内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 29年度4月より4床特養へ用途転換、計16床。稼働率達成 ・ 平均要介護度が年間通じて、目標値から約0.7程度下がった ・ サービス提供体制加算Ⅲの算定継続

- ・ レクリエーションや外出行事の充実、毎月のお便りやHP上にアップしアピール
- ・ 在宅ケアマネジャーとの連携、連絡の充実継続実施
- ・ 営業活動について在宅部門、施設部門で連携、定期的に状況の報告を継続的に実施
- ・ 3カ月先までの利用状況報告実施

② 業務及び組織力向上計画

計画内容
<p>(1) 管理職員教育による組織力向上（管理業務の指導や方法論）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理職用の内部研修の実施 ・ 管理職用の外部研修への参加 ・ 管理者レベルでの他部署、他部門との業務連携を強化 <p>(2) 情報共有、情報管理と伝達力の向上（更なる安心安全の保持）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各会議やカンファレンスでの伝達や報告事項をわかりやすく明記する ・ 管理職同志の情報認識確認を、各会議等で再確認する ・ 他部署、他部門の情報認識確認を、各会議等で再確認する ・ パソコン内の共有ホルダーや、介護ソフト等を活用した情報共有方法の検討
成果・報告内容
※特養と同報告

③ 福祉サービス力向上への方策（特養に準ずる）

計画内容
<p>(1) 技術力の向上（福祉事業の意味・業務技術・感染対策・OJT等）</p> <p>i 仕事に対する考え方教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人理念、施設方針、今期事業計画を伝達及び理解させる研修の実施 ・ 地域貢献や外部研修を通じて、社会性と福祉の必要性を認識させる場の提供 <p>ii 業務技術向上への方針</p> <p>-1 利用者中心の介護業務を行う方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットケアの推進、24時間シートの活用方法検討 ・ 各部門や部署の連携方針 ・ 各カンファレンスの在り方の検討 <p>-2 具体的な介護の内容（在宅ケアプランに基づいた介護内容の共有・周知・実行）</p> <p>◎起床・就寝において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の自宅での生活リズムを知り、その人にあわせた一日を組み立てる ・ 睡眠の状況を把握し、必要に応じた対応をすることで健康を維持する <p>◎食事提供時において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美味しく、安全に、楽しく食べていただけるような工夫、配慮、環境整備 ・ 栄養をとり健康を維持するために不可欠であることを理解 <p>◎排泄時において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の自宅での生活リズムを知り、その方にあわせた一日を組み立てる ・ プライバシー保護と個々のリズムを知り、清潔、快適さを提供 ・ 排泄用品の適切な利用（利用者の快適さ・コスト面への意識） <p>◎入浴時において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プライバシーの保護と個々の快適さを尊重したユニットごとの入浴の推進 ・ 安全かつ適切な入浴方法についての定期的な見直し

◎環境に対する配慮

- ・自宅のような家庭的な雰囲気作りの継続
- ・誰が見ても清潔感があるよう心地よく衛生管理の行き届いた空間の整備

◎送迎

- ・個々の状況に応じた安全な送迎の実施

-3 内部OJTの在り方について

- ・24時間シート等に基づいた基本的な業務スケジュールの整備、見直し
- ・誰もが根拠を知り、説明ができることで同じケアが出来ることを理解する
- ・経験年数に応じた役割の整備とその実行（プリセプター、プリセプティ制度等）

成果・報告内容

- ・担当居宅ケアマネジャーの計画に沿った支援内容の実施と変化についての迅速な報告の実施
- ・新しい理念の周知、理解について、各種会議、職員心得などによって実施、継続
- ・具体的な業務について各部署ごとに月間目標をたて、実施、達成できるよう意識付けを継続
- ・アンケートによりご利用者、ご家族の満足度の確認とその周知の実施
- ・環境整備の強化（専門担当の配置）

計画内容

(2) 感染症蔓延予防対策の方針

i 感染症まん延の予防策

- ・流行期における受入れについての検討
- ・感染対策マニュアルの内容確認に基づいた対応、行動
- ・館内状況と周辺状況の情報収集による、面会制限の発令
- ・予防接種の実行と確認
 - ・ショートステイの全利用者について冬季利用の条件とする
- ・健康管理の徹底
- ・面会制限発令以降の館内行事の制限
- ・感染症対策委員会の設置（感染対策マニュアル・特別委員会欄参照）

ii 感染症重症化の予防策

- ・感染症特有の症状が少しでも出れば、家族連絡、即時居室対応、検査等行う
- ・ご家族への重症化させないための早めの受診の提案

iii 感染症まん延時などに備えた、事業継続計画の整備

成果・報告内容

- ・嘱託医、産業医からの指示指導に基づき、予防対策を実施し、ショート利用者間の感染者無し
- ・面会制限については12月中旬から3月中旬まで実施（職員、来館者の健康チェック等の徹底）
- ・情報収集の徹底（市内情報、保健所情報、保険者、県等）・マニュアル等の充実、補足実施
- ・予防接種の依頼とその報告の徹底実施

計画内容

(3) レクリエーション提供と機能訓練の支援

i ユニット内レクの提供について

- ・季節や伝統文化を楽しむ
- ・生きがいを見いだせる・ユニットごとにショート独自のレクの実施
- ・地域とのふれあや季節に応じた外出の計画

ii 施設全体レクの提供について

- ・館内の一体感や地域とのかかわりを味わう

- ・ 喜ばしい晴れの舞台を味わう
 - ・ 定期的な施設内販売など、買う、見る、選ぶ、季節を感じる楽しさを味わう
- iii 機能訓練支援の提供について
- ・ あっとほーむ体操の定着、継続
 - ・ 身体機能の維持、低下防止・自律支援
 - ・ 自宅での生活に必要な動作が維持できるように支援する
 - ・ 福祉用具の適切な利用

成果・報告内容

- ・ 委員会を中心とした全体行事と各部署ごとのレクの推進、実施
- ・ 専門職員とボランティア活用によるカフェの実施（ローズカフェ 下期より再開 二回）
- ・ 館内販売 衣料品（年二回） 食品日用品（月二回）の継続実施（参加希望者のみ）
- ・ あっとほーむ体操、食事前の『北国の春』体操、個々の生活動作による生活リハビリの継続
- ・ ケアプランに沿った生活リハビリの推進継続

計画内容

(4) リスクマネジメント力の向上（特養に準ずる）

i 事故防止の取組み

- ・ ケガや発病時について事前にリスクを回避するための取組みの徹底
- ・ 起きてしまった後の振り返りや、見直し、環境整備の取組みの徹底

ii 個人情報の取り扱いについて

- ・ 個人情報保護法に基づく取扱いの徹底

成果・報告内容

※特養と同報告

計画内容

(5) 認知症対応力の向上

- ・ 全職種が認知症についての実践方法を学び、対応力をつける
- ・ 困難な事例等の検証、情報共有
- ・ 『住み慣れた地域で尊厳を持って生活していく』を実現する

成果・報告内容

※特養と同報告

計画内容

(6) 権利擁護の推進

- ・ 永続的な権利擁護の推進、身体拘束の廃止、虐待防止の取組み
- ・ 高齢者の尊厳の確保と質の高いサービスを継続的に提供する
- ・ 権利擁護全般に関する知識や介護技術の不足、ストレス、個々の事情等と密接に関係があるので多角的に推進

成果・報告内容

※特養と同報告

計画内容
<p>(1) 多様な人材育成（1人2役・医療、障害等の知識向上・指導力や創造力の向上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内部研修の提供内容の工夫 ・ 医療や障害にかかわる外部研修への参加 ・ 上位資格とその資格保持に見合った業務の理解力向上 <p>(2) 人材確保への対策（シルバー世代、外国人雇用・研修場所等の活用など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校や専門学校生の新卒者の確保 ・ 介護福祉士等の実習先としての受入れ ・ 定年が70歳のため、60歳以上の雇用を積極的に行う ・ 各種学校、専門学校への実習、研修場所提供 ・ 将来に向けた、外国人雇用における更なる諸準備 ・ 障害者の雇用を継続するための体制整備・協力機関との連携
成果・報告内容
※特養と同報告

⑤ 地域共生社会構築への方策

計画内容
<p>(1) 地域貢献事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> i 地域担当者とボランティアによる、近隣地区での催し、相談会等の実施 ii 近隣地域の祭り等の参加（井野団地・小文間・ゆめあかり他） <p>(2) 地域との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣地域の活性化ワーキンググループへの参加 ・ 地域の自治会参加 ・ 地区民生委員児童委員協議会との連携・受入れ <p>(3) ボランティアとの連携や関わり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア担当者の選定と対応方法を支援 ・ ボランティアの受入れ、奉仕内容の検討、集約、振り分け ・ ボランティア団体との連携、協力・社協との連携、協力 <p>(4) 地域防災対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> i 災害時の協力体制の整備 ・ 茨城県広域避難計画受入協定 <ul style="list-style-type: none"> 東海第二原子力発電の原子力事故による災害時に避難地域の施設の受入れの協定 ・ 災害時相互応援協定 <ul style="list-style-type: none"> 災害時に相互協力して応援を行うことで入居者の安全、施設の安定的な運営を図る ・ ふれ愛パートナーシップ連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> 地域連携、共通課題の解決、学び、情報交換等、防災についての共助 ii 福祉避難所としての役割 iii 地域の防災組織との連携、協力
成果・報告内容
※特養と同報告

⑥ ご家族、公的機関等との連携

計画内容
<ul style="list-style-type: none">・ 家族対応、ご家族との信頼関係の構築・ 家族説明会の定期開催・ 緊急時の受入れ体制整備（虐待ケース、市、包括等の公的機関からの依頼等）・ 苦情解決窓口の設置、開設
成果・報告内容
※特養と同報告

3、デイサービスセンター水彩館

① 平均稼働率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
稼働日数	25	27	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27	26
利用者延人数	425	496	472	476	495	458	443	423	415	354	368	454	440
1日平均数	17.0	18.4	18.2	18.3	18.3	17.6	17.0	16.3	16.6	14.8	15.3	16.8	17.0
稼働率	68.0%	73.5%	72.6%	73.2%	73.3%	70.5%	68.2%	65.1%	66.4%	59.0%	61.3%	67.3%	68.2%

② 日常生活状況（3月末時点）

区分	食事			排泄			入浴			歩行		
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助
人数	48	1	0	39	10	0	38	10	1	33	16	0
区分	寝返り			車椅子			整容動作			褥瘡	胃ろう	酸素
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助			
人数	42	7	0	2	2	3	45	5	1	0	0	0

③ 計画に関する報告

1日定員数	： 25名	年間利用可能人数	： 7,700名(308日)
-------	-------	----------	----------------

① 収益計画

計画内容
(1) 稼働率 ・ 70.9 %とする（年間延べ利用人数： 5,775 名）
(2) 稼働安定に向けた指針 ・ 平均要介護度 1.7 を目安とする ・ サービス体制に応じた加算の算定 ・ 選ばれる事業所としてのサービスの質の向上
(3) 営業力強化 ・ 定期的、継続的な営業活動 ・ サービス内容が、目で見えて理解できるような営業方法を検討 ・ 外部居宅への営業継続、強化 ・ 施設内他事業所を含めた、連結的な営業活動を行う
成果・報告内容
・ 稼働率は2.7%目標値に届かず（秋季移行の安定稼働が見込めず、3月頃から上昇となる） ・ 平均要介護度は年間を通じて、目標値よりも0.2上がっている

- ・ レクリエーションや外出行事の充実、毎月のお便りやHP上にアップしアピール
- ・ 在宅ケアマネジャーとの連携、連絡の充実継続実施
- ・ 営業活動について在宅部門、施設部門で連携、定期的に状況の報告を継続的に実施

② 業務及び組織力向上計画

計画内容
<p>(1) 管理職員教育による組織力向上（管理業務の指導や方法論）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理職用の内部研修の実施 ・ 管理職用の外部研修への参加 ・ 管理者レベルでの他部署、他部門との業務連携を強化 <p>(2) 情報共有、情報管理と伝達力の向上（更なる安心安全の保持）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各会議やカンファレンスでの伝達や報告事項をわかりやすく明記する ・ 管理職同志の情報認識確認を、各会議等で再確認する ・ 他部署、他部門の情報認識確認を、各会議等で再確認する ・ パソコン内の共有ホルダーや、介護ソフト等を活用した情報共有方法の検討
成果・報告内容
※特養と同報告

③ 福祉サービス力向上への方策

計画内容
<p>(1) 技術力の向上（福祉事業の意味・業務技術・感染対策・OJT等）</p> <p>i 仕事に対する考え方教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人理念、施設方針、今期事業計画を伝達及び理解させる研修の実施 ・ 地域貢献や外部研修を通じて、社会性と福祉の必要性を認識させる場の提供 <p>ii 業務技術向上への方針</p> <p>-1 利用者中心の介護業務を行う方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別対応の徹底 ・ 各カンファレンスの在り方の検討 ・ 外出やレクリエーションの企画 <p>-2 具体的な介護の内容（ケアプランに基づいた介護内容の共有・周知・実行）</p> <p>◎食事提供時において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美味しく、安全に、楽しく食べていただけるような工夫、配慮、環境整備 ・ 栄養をとり健康を維持するために不可欠であることを理解 <p>◎排泄時において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プライバシー保護、ご本人の意思を尊重し安全に配慮し快適さを提供する <p>◎入浴時において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プライバシーの保護と個々の快適さの尊重 ・ 自宅での状況の把握と、保清や身体観察の重要性を理解 ・ 安全、適切な入浴方法についての定期的な見直し <p>◎環境に対する配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭的で楽しく心地よい雰囲気作りの継続 ・ 誰が見ても清潔感があるよう心地よく衛生管理の行き届いた空間の整備 <p>-3 内部OJTの在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もが根拠を知り、説明ができることで同じケアが出来ることを理解する

・経験年数に応じた役割の整備とその実行（プリセプター、プリセプティ制度）

成果・報告内容

- ・担当居宅ケアマネジャーの計画に沿った支援内容の実施と変化についての迅速な報告の実施
- ・新しい理念の周知、理解について、各種会議、職員心得などによって実施、継続
- ・具体的な業務について各部署ごとに月間目標をたて、実施、達成できるよう意識付けを継続
- ・アンケートによりご利用者、ご家族の満足度の確認とその周知の実施

計画内容

(2) 感染症蔓延予防対策の方針

i 感染症まん延の予防策

- ・流行期における受入れについての検討
- ・館内、車内の清掃、消毒の継続
- ・利用時検温（館内に入る前に）
- ・予防接種の実行と確認
 デイサービス全利用者について、冬季利用時の条件とする
- ・健康管理の徹底
- ・面会制限発令以降の館内行事の制限
- ・感染症対策委員会の設置（感染対策マニュアル・特別委員会欄参照）

ii 感染症重症化の予防策

- ・感染症の疑いがあれば、即時個室等対応、家族連絡、必要に応じて検査等行う
- ・面会制限発令以降のデイサービス内の行事の検討、制限

iii 感染症まん延時などに備えた、事業継続計画の整備

成果・報告内容

- ・嘱託医、産業医からの指示指導に基づき、予防対策を実施し、デイ利用者間の感染者無し
- ・面会制限については12月中旬から3月中旬まで実施（職員、来館者の健康チェック等の徹底）
- ・情報収集の徹底（市内情報、保健所情報、保険者、県等）・マニュアル等の充実、補足実施
- ・予防接種の依頼とその報告の徹底実施

計画内容

(3) レクリエーション提供と機能訓練の支援

i 個別レクの提供について

- ・季節や伝統文化を楽しむ
- ・生きがいや役割を見いだせるレクや作業等の提供
- ・地域とのふれあや季節に応じた外出の計画

ii 施設全体レクの提供について

- ・一体感や地域とのかかわりを味わう
- ・喜ばしい晴れの舞台を味わう
- ・定期的な施設内販売など、買う、見る、選ぶ、季節を感じる楽しさを味わう

iii 機能訓練支援の提供について

- ・あっとほーむ体操、平行棒運動、その他の体操の定着、継続
- ・身体機能の維持、低下防止・自律支援
- ・自宅での生活に必要な動作が維持できるように支援する
- ・福祉用具の適切な利用についてのアドバイス

成果・報告内容

- ・委員会を中心とした全体行事と各部署ごとのレクの推進、実施
- ・専門職員とボランティア活用によるカフェの実施（ローズカフェ 下期より再開 二回）
- ・館内販売 衣料品（年二回） 食品日用品（月二回）の継続実施（参加希望者のみ）
- ・あっとほーむ体操、口腔ケア体操の実施、平行棒やその他の機能訓練を実施、継続
- ・ケアプランに沿った生活リハビリの推進継続

計画内容

- (4) リスクマネジメント力の向上
- i 事故防止の取組み
 - ・ケガや発病時について事前にリスクを回避するための取組みの徹底
 - ・起きてしまった後の振り返りや、見直し、環境整備の取組みの徹底
 - ii 個人情報の取り扱いについて
 - ・個人情報保護法に基づく取扱いの徹底

成果・報告内容

※特養と同報告

計画内容

- (5) 認知症対応力の向上
- ・全職種が認知症についての実践方法を学び、対応力をつける
 - ・『住み慣れた地域で尊厳を持って生活していく』を実現する

成果・報告内容

※特養と同報告

計画内容

- (6) 権利擁護の推進
- ・永続的な権利擁護の推進、身体拘束の廃止、虐待防止の取組み
 - ・高齢者の尊厳の確保と質の高いサービスを提供するための継続的な権利擁護全般に関する知識や介護技術の不足、ストレス、個々の事情等と密接に関係があるので多角的に指導教育していく

成果・報告内容

※特養と同報告

④ 人材育成、確保計画

計画内容

- (1) 多様な人材育成（1人2役・医療、障害等の知識向上・創造力の向上）
- ・内部研修の提供内容の工夫
 - ・医療や障害にかかわる外部研修への参加
 - ・上位資格とその資格保持に見合った業務の理解力向上
- (2) 職員確保への対策（シルバー世代、外国人雇用・研修場所等の活用など）
- ・高校や専門学校生の新卒者の確保
 - ・定年が70歳のため、60歳以上の雇用者を積極的に行う
 - ・各種学校、専門学校への実習、研修場所提供

<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来に向けた、外国人雇用における更なる諸準備 障害者の雇用を継続するための体制整備・協力機関との連携
成果・報告内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談員クラス職員へ、生産性効率を踏まえた業務改善の検討 ・ その他特養と同報告

⑤ 地域共生社会構築への方策

計画内容
<p>(1) 地域貢献事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> i 地域担当者とボランティアによる、近隣地区での催し、相談会等の実施 ii 近隣地域の催し等の参加（井野団地・小文間・ゆめあかり他） <p>(2) 地域との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣地域の活性化ワーキンググループへの参加 ・ 地域の自治会参加 ・ 地区民生委員児童委員協議会との連携・受入れ <p>(3) ボランティアとの連携や関わり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア担当者の選定と対応方法を支援 ・ ボランティアの受入れ、奉仕内容の検討、集約、振り分け ・ ボランティア団体との連携、協力・社協との連携、協力 <p>(4) 地域防災対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> i 災害時の協力体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 茨城県広域避難計画受入協定 東海第二原子力発電の原子力事故による災害時に避難地域の施設の受入れの協定 ・ 災害時相互応援協定 災害時に相互協力して応援を行うことで入居者の安全、施設の安定的な運営を図る ・ ふれ愛パートナーシップ連絡協議会 地域連携、共通課題の解決、学び、情報交換等、防災についての共助 ii 福祉避難所としての役割 iii 地域の防災組織との連携、協力
成果・報告内容
※特養と同報告

⑥ ご家族、公的機関等との連携

計画内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族対応、ご家族との信頼関係の構築 ・ 家族説明会の定期開催 ・ 緊急時の受入れ体制整備（虐待ケース、市、包括等の公的機関からの依頼等） ・ 苦情解決窓口の設置、開設
成果・報告内容
※特養と同報告

1、居宅介護支援事業水彩館

① 平均稼働率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
要支援（人）	24.0	30.0	34.0	33.0	32.0	35.0	40.0	39.0	42.0	42.0	44.0	44.0	36.6
要介護（人）	59.0	55.0	52.0	55.0	55.0	58.0	58.0	65.0	66.0	72.0	64.0	66.0	60.4
利用者数（人）	71.0	70.0	69.0	71.5	71.0	75.5	78.0	84.5	87.0	93.0	86.0	88.0	78.7

（※要支援者は、0.5名として換算する。）

② 日常生活状況（3月末時点）

区分	食事			排泄			入浴			歩行		
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助
人数	105	5	0	86	22	2	47	62	0	32	75	3
区分	寝返り			車椅子			整容動作			褥瘡	胃ろう	酸素
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助			
人数	24	35	1	81	28	1	0	5	2	0	0	0

③ 計画に関する報告

年平均顧客数 : 80.6 名

※総合支援者 0.5名とする

① 収益計画

計画内容
(1) 目標数値 ・ 上記のとおりとする
(2) 稼働安定に向けた指針 ・ 安定した利用者数の確保 年度の目標利用者数を意識し、新規受入れをしていく 資質向上により、特化したケースの依頼を受けられるようになる 利用者目線の適切な加算等の請求 定期的、継続的な営業活動 ・ 関係機関との関係の構築、連携 地域包括支援センターとの関係構築、保持、継続 近隣病院、サービス事業所との連携強化 ・ 地域貢献事業や地域活動への参加、交流 地域の催しへの参加、交流、居宅を知ってもらうための活動

<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定調査の受託 取手市、その他市町村からの認定調査の受託
成果・報告内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平均目標人数には1.9名届かずだったが、収益は各種加算などの算定もありほぼ達成 ・ 地域貢献事業「彩の集い」開催。介護保険等の説明や介護予防などを行う。 継続

② 業務、サービス力向上計画

計画内容
<p>(1) ケアマネジメント実践内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公正中立、情報管理、法令遵守し基準に則した運営 ・ 自立支援、尊厳の保持の観点におけるケアマネジメントの実践 ・ 困難事例などの受入れ時の相談連携先、協力体制の整備 ・ 利用者、家族との信頼関係の構築、適切な個人情報の扱い ・ 利用者や家族からの要望、苦情等に対する適切かつ迅速な対応 ・ インフォーマルサービス団体との交流、資源の開発、発掘 <p>(2) ケアマネジメント力向上のための実践内容</p> <p>認知症対応力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全職種が認知症についての実践方法を学び、対応力をつける ・ 『住み慣れた地域で尊厳を持って生活していく』を専門職として実現する <p>権利擁護の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 永続的な権利擁護の推進、身体拘束の廃止、虐待防止の取組み ・ 高齢者の尊厳の確保と質の高いサービスを提供するための継続的な権利擁護全般に関する知識についての実践、相談連絡先、協力体制の整備 <p>施設内会議の定期的、継続開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 居宅会議・在宅会議 資質の向上、困難事例の共有、検討、意見交換、業務改善、在宅サービス連携強化等 <p>情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険改定を含む各種研修や勉強会、連絡会への積極的な参加
成果・報告内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各項目の継続を実施

③ 組織力向上計画

計画内容
<p>(1) 管理職員教育による組織力向上（管理業務の指導や方法論）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理職用の内部研修の実施 ・ 管理職用の外部研修への参加 ・ 管理者レベルでの他部署、他部門との業務連携を強化 <p>(2) 情報共有、情報管理と伝達力の向上（更なる安心安全の保持）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各会議やカンファレンスでの伝達や報告事項をわかりやすく明記する ・ 管理職同志の情報認識確認を、各会議等で再確認する ・ 他部署、他部門の情報認識確認を、各会議等で再確認する ・ パソコン内の共有ホルダーや、介護ソフト等を活用した情報共有方法の検討
成果・報告内容
<p>※特養と同報告</p>

収益事業

※ 特になし